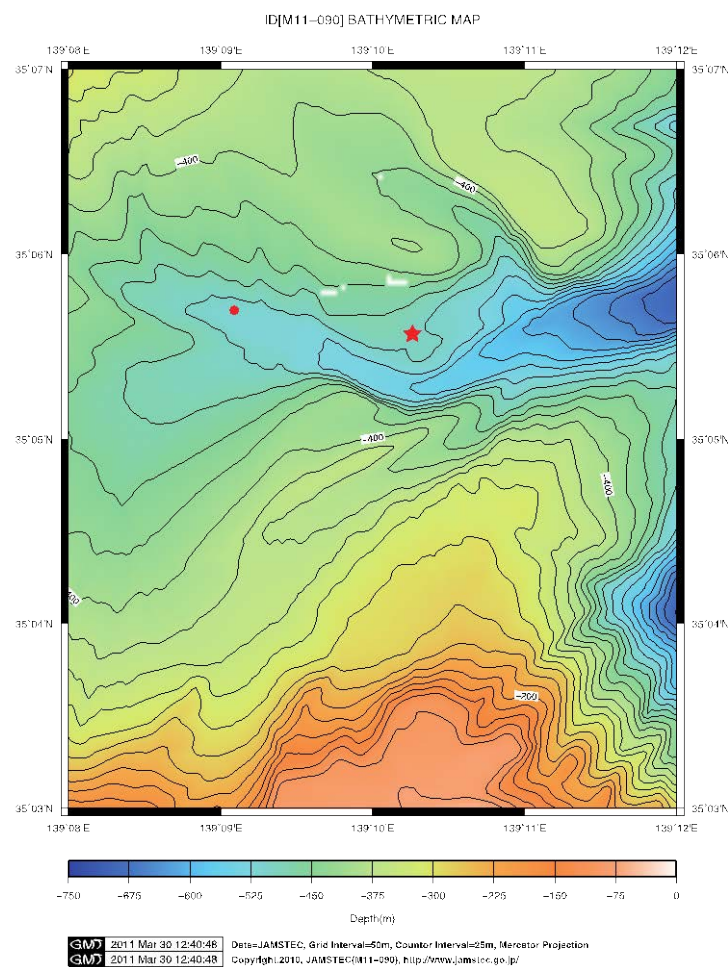


クルーズサマリー

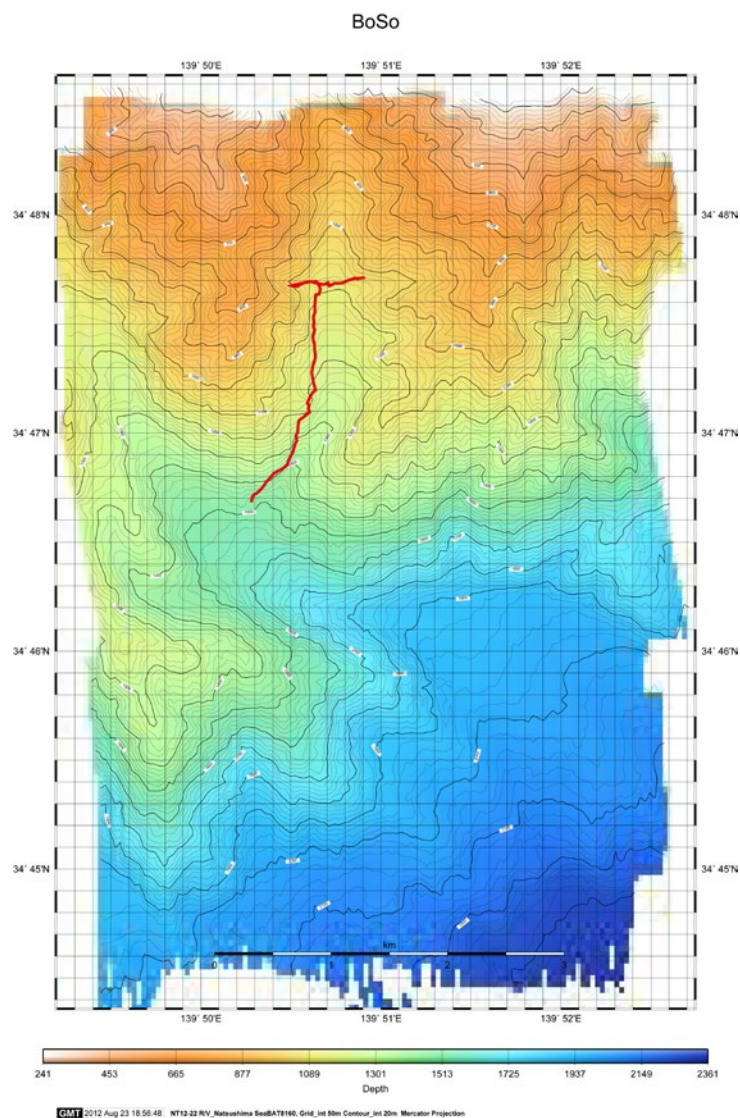
1. 航海情報

- 航海番号 : NT12-22
- 船舶名 : 「なつしま」 / 「ハイパードルフィン 3000」
- 航海名称 : IMPACTO (IMPlantation of Animal Carcasses for Time-series Observations) III
& K00H00 III
- 首席研究者 [所属機関名] : 藤原義弘 [海洋研究開発機構]
- 課題代表研究者 [所属機関] : 藤原義弘 [海洋研究開発機構] (IMPACTO III)
満澤巨彦 [海洋研究開発機構] (K00H00 III)
- 研究課題名 : 「鯨骨生態系の遷移初期の解明～巨大沈降粒子と深海鮫～」
「K00H00 III」
- 航海期間 : 2012 年 8 月 21 日 (火) ~ 2012 年 8 月 25 日 (土)
- 出港地～寄港地～帰港地の情報 : JAMSTEC 岸壁 (横須賀) → JAMSTEC 岸壁 (横須賀)
- 調査海域名 : 相模湾, 房総半島沖
- 調査マップ

<IMPACTO III> 潜航地点を★ (マッコウクジラ) および● (ザトウクジラ) で示した.



＜K00H00 III＞ 潜航地点（航跡）を赤線で示した．



2. 実施内容

● 調査概要

＜IMPACT0 III＞

腐肉食期から骨侵食期にいたる鯨骨生物群集の変化と鯨遺骸の消費速度を明らかにするために、相模湾熱海沖に沈設したマッコウクジラ遺骸の経過観察を実施した。マッコウクジラは体長約5mの死亡後座礁した幼体で、2012年6月8日に沈設した。沈設から約2.5ヶ月後の様子を観察した結果、大部分の軟組織が消費されていた。主な腐肉食者はアナゴ類、甲殻類であった。また長期観測のため設置していたタイムラプスカメラ(4台)、セジメントトラップ(2台)、流向流速計(3台)を回収した。加えて、熱海市が水深約400mに沈設したザトウクジラ遺骸の観察を行った。

<K00H00 III>

相鴨トラフから派生した東西性の野島海底谷とその支谷との交点の水深 1508m の地点に着底し、支谷の西壁に沿って北へ潜航し、1055m で離底した。海底谷の壁を作っている堆積岩の成層構造が見られた。海底谷の壁には激しい浸食の構造が見られた。それは陸上の河川で見られる浸食構造と同様であった。海底谷の中央では砂や泥が厚く埋積しており、ゴミがまとまって集まっている箇所や茶色い葉っぱが何枚も見られた。巨礫があってその周りにえぐれた構造が見られたがこれは海底に強い流れがあったことを示している。またリップルマークも観察された。この潜航で岩石 7 個、MBARI Core4 本、生物サンプル 10 種類が得られた。